

# 温故知新

## 日野歴史探訪

私達の住む日野町には、52の大字があり、それぞれの地域が豊かな自然と歴史文化でいろどられています。  
温故知新では、町内各大字の歴史と代表的な文化財をシリーズで紹介していきます。

## 鎌掛原産の日野菜

日野菜は、大字鎌掛<sup>かかげ</sup>翁父<sup>おきな</sup>溪<sup>せき</sup>を原産とする日野の地名を冠した蕪<sup>かぶ</sup>の一種です。大字鎌掛<sup>かかげ</sup>翁父<sup>おきな</sup>溪<sup>せき</sup>は、かつて古代湖（現在の琵琶湖）があった「古琵琶湖層」にあたり、また日野の気候風土は日野菜栽培に適していたことから、古くから栽培されてきました。



収穫後の日野菜

## 日野菜にまつわる伝承

蒲生<sup>がもう</sup>家中興の祖といわれる蒲生貞秀<sup>さだひで</sup>（智閑<sup>ちかん</sup>）（一四四四―一五一四）が翁父溪<sup>おきなせき</sup>の観音堂にお参りに行った時に日野菜を発見したといわれています。

ます。

また、日野菜の漬物が桜漬と呼ばれるようになったいわれとして次のような話が伝わっています。

室町時代後期、応仁<sup>おうにん</sup>の乱などで都が乱れ、当時一流の文化人が、近江国内に逃れてきていました。その中に京の公家で、和歌と蹴鞠<sup>けまり</sup>の家として知られ、特に和歌に才能を発揮し歌道師範として活躍、また書道<sup>しやうだう</sup>栄雅<sup>えいげ</sup>流<sup>りゅう</sup>（飛鳥井流<sup>あすかゐりゅう</sup>）の祖でもあった権大納言<sup>ごんなんごん</sup>飛鳥井雅親<sup>あすかゐりやまのちか</sup>（一四一七―一四九〇）がいました。

雅親は、現在の甲賀市周辺に一時身を寄せていました。貞秀自身も『智閑和歌集』などを編するほどの文化人でしたので、歌を通じてお互いに交流がありました。

貞秀は、翁父溪<sup>おきなせき</sup>で見つけたその菜を漬物にして雅親に贈りました。さらに雅親がこの漬物を後柏原天皇に献上したところ、いたく感動した天皇が雅親に詠ませた「桜漬」の歌が

今に伝わります。

「近江なる檜物<sup>ひもの</sup>の里の桜漬  
これや小春のしるしならん」

## 江戸時代の日野菜

江戸時代になると日野菜は、『本



雪鼎が描いた日野菜

草綱目啓蒙<sup>そうこうもくけいもう</sup>」など様々な書物に近江の名産としてその名が見られるようになり、この時期すでに全国に広く知られていたことがわかります。

江戸時代の日野菜は、現代のものと比べると随分太かったようで、大阪の地で大成した日野町大字大谷出身の絵師の月岡雪鼎<sup>つきおかせつてい</sup>（一七一〇―一七八六）が描いた日野菜の絵は、まるで大根のような姿形をしています。

## 明治から現在へ

太かった日野菜も、品種改良が行われ、まっすぐ細い現在の形になりました。その種子については、大正時代には南比都佐農会で、「原種圃<sup>ほんしゆほ</sup>」が設置され、現在は日野菜原種組合（大字深山口<sup>みかみぐち</sup>）によって種の保全が保たれています。

## 食文化としての日野菜

日野菜は、ほどよい苦味と辛味があり、漬物をはじめとしてさまざまな料理に使われてきました。

平成十（一九九八）年には、日野菜漬が県を代表する名産食品であるとして「滋賀県の食文化財」に選定されました。

これからも大切なふるさとの味として「日野菜」を未来へ伝えていきたいものです。

point

～ 外国人の方も安心・安全に暮らすために ～

## 「やさしい日本語」を使うためのポイント

◆時間は12時間で表記する

例) 21時30分 ⇒ 午後9時30分



◆年月日はスラッシュ (「/」) を使わない

例) 2021/12/31 ⇒ 2021年12月31日

◆元号は使わず、西暦で表記する

例) 令和3年12月31日 ⇒ 2021年12月31日

外国人の方にも分かりやすい「やさしい日本語」を紹介するコーナーは、今月で最終回です。やさしい日本語は、情報を伝えるための手段のひとつであり、正解はありません。なぜなら、相手によって、日本語能力や文化習慣、社会などの知識が異なるからです。相手にとって、必要な情報を考えながら伝えましょう。

◆問い合わせ先

企画振興課 秘書広報担当 ☎ 0748-52-6550

## 第16回マニフェスト大賞で 優秀マニフェスト推進賞

このたび、堀江町長が地方自治体や市民団体などの活動を表彰する第16回マニフェスト大賞で、2,730件の応募の中から優秀マニフェスト推進賞に選ばれました。

民間企業や大学法人とのスピーディーでミスマッチのない官民連携やデータを活用した政策立案、政策を見える化するプロセスデザインの取り組みを評価していただきました。



マニフェスト大賞  
HP二次元コード

## 青雲之志

～町長コラム～

日野町長 堀江 和博

早いもので12月となりました。今年を振り返りますと、年初から新型コロナウイルスが猛威をふるいまし

たが、5月からワクチン接種事業を開始させていただくことができました。11月には無事に希望される方へ2回目の接種を完了することができ、皆さんのご理解ご協力を心より感謝を申し上げます。来年2月頃には3回目のワクチン接種も開始される予定です。引き続きのご理解ご協力をよろしくお願ひします。

さて本年4月から第6次日野町総合計画がスタートし「時代の変化に対応し だれもが輝き ともに創るまち」をめざして、さまざまな取り組みを進めてきました。特に町全体の公共交通活性化をめざす「わたし自動車プロジェクト」も大き

く進み出しています。町民の皆さんにも公共交通に関するアンケートをお願いし、4,600通を超えるお返事をいただきました。ご協力ありがとうございました。

現在はアンケート結果とともに人の移動状況を把握するビッグデータを活用し、移動状況や移動需要を整理しています。また一方で、工業団地に勤務される方の通勤や子ども達の通学に関する実証実験の準備も進めています。多くの方々にご協力いただきながら、一步一步ですが着実にプロジェクトを進めています。今後も折に触れてプロジェクトの状況をお伝えしていきたいと思ひます。

結びになりますが、12月は年末年始を控え慌ただしい日が続きますが、くれぐれもご自愛ください。皆さんが穏やかな良き年を迎えられるよう、引き続き職務に邁進してまいります。今月もどうぞよろしくお願ひします。